

菊地梯子委嘱作品による

十七絃箏演奏会 vol.1

2025年12月20日 [土]

14時00分 開演 (13時30分開場)

ヤマハホール 東京都中央区銀座7-9-14

プログラム

「十七絃独奏による主題と変容 風」 牧野由多可 作曲

「箏 箏歌」 伊福部昭 作曲 / 菊地梯子 編曲

「十七絃の生まれ」 篠原真 作曲

「魂招琴 十七絃箏・尺八」 佐藤聡明 作曲

出演 帯名 久仁子 / 平野 裕子 / 河原 抄子 / 池上 亜佐佳

賛助出演 善養寺 恵介

▶ 入場料 | 全席指定 |

一般 4,000円 (当日券 4,500円) 学生 2,000円

[主催] 菊地梯子委嘱作品による十七絃箏演奏会実行委員会

[お問い合わせ・チケット申込み]

090-3416-0572 (河原)

kazenowa17@gmail.com

チケットは右のQRコードからお申し込みいただけます



Photo by AKIHIKO

「十七絃と菊地梯子」

邦楽と洋楽との懸け橋として意義ある演奏活動を続け、文部大臣賞に輝く「邦楽四人の会」において、菊地梯子さんは十七絃奏者として活躍中である。

◆その十七絃というのは、「ゴトのショパン」といわれた箏曲界の巨星宮城道雄が、大正十年―半世紀前に発明して使い始めた楽器である。「大琴」と呼ばれた時期もあったことでも分かるように、長さ2メートル余りの大型のゴトである。文字通り「Grand Koto」である。

◆しかし、この「十七絃」は、従来の十三絃のゴトの音域を中心に、上下に音域を拡大したものではない。従来のゴトの音域よりも低い音域だけを受持つものである。つまり、低音専用の楽器なのである。

“Bass-Koto”と云うべきである。

◆十七絃は長い間合奏専門の楽器として使用されたが、近年ようやく独奏楽器としても活用されるに至り、急にその新しい可能性が注目され始めた。その蔭には、菊地さんの功績があったことを忘れることはできない。

◆従来片手間に手がけた十七絃を、専門に手がけた最初の人は菊地さんである。その菊地さんが、「十七絃によるリサイタル」という日本音楽史上企期的な会を開くとのこと。十七絃も満足だろう。宮城道雄も嬉しいであろう。

吉川 英史

1969年 菊地梯子十七絃リサイタルチラシより

出演

賛助出演



池上 亜佐佳



河原 抄子



平野 裕子



帯名 久仁子



善養寺 恵介

次回演奏会

2026年12月 予定

「ヴァン・アレン」 藤田正典 作曲

「串人形」 牧野由多可 作曲

「なばりの三ツ」 吉松隆 作曲

他